

学校現場から再構築する LGBTQ+教育 ～理論と実践をつなぐ実証的研究～



【中野キャンパス】人文社会学部 経営学科

トレーナー・スポーツ経営コース 教授

郡 吉範 Kohri Yoshinori

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：性教育・ジェンダー教育・LGBTQ+・生徒指導・教育相談・教員養成

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

SDGs 目標 5：ジェンダー平等を実現しよう

本研究は、教育学の理論と学校現場での実践を往還しながら、LGBTQ+に関する教育の「現場適合モデル」を構築することを目的とする。近年、性的マイノリティへの理解促進が国際的にも国内的にも求められており、文部科学省通知や生徒指導提要の改訂などを通して、学校教育における対応の明確化が進められている。

しかしながら、学校現場では概念理解の不足や用語の誤解、保護者対応への不安、組織内の温度差などが見られ、実践が必ずしも体系的に整理されていない状況がある。

本研究は、こうした現場の混乱や葛藤の構造を分析し、教員が無理なく実践できる指導・支援の枠組みを提示するものである。特に、教員養成および教育委員会での実務経験を踏まえ、理論と実装の間に生じるギャップを可視化することに重点を置く。さらに、「困難を抱える児童生徒」への対応にとどまらず、学習や生活が安定している層への発展的学びの設計やピアティーチングの導入等、学級全体の教育力を高める戦略的アプローチを検討する。

単なる理解促進や知識伝達型の教育にとどまらず、学校組織全体で多様性を支える体制構築、教職員研修モデルの開発、地域・自治体との連携強化へと展開することを目指すものである。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【実学へのつながり】

- ① 教育委員会および学校現場が直面する LGBTQ+に関する実務課題（相談対応、校内合意形成、保護者説明等）に対し、現場適用可能な指導・支援モデルを提示する。
- ② 教員養成課程および現職教員研修に組み込み可能なプログラムとして体系化し、学校組織全体の対応力向上を図る。
- ③ 発展的学びやピアティーチングを通して、学級全体の多様性理解を高める教育設計を提案する。

【産業界や自治体へのアピールポイント】

- ① 多様性を尊重する人材育成の基盤形成に資する教育モデルを提示し、将来的なダイバーシティ推進に貢献する。
- ② 自治体の教育政策・人権施策の立案および評価に活用可能な実証データを提供する。
- ③ 教育現場・行政・地域をつなぐ連携モデルの構築を通して、持続可能な地域社会形成に寄与する。

【研究に対するニーズ】

- ① 学校現場における LGBTQ+対応の実践モデルに関する体系的な研究へのニーズ
- ② 教員養成と現職研修を接続する教育プログラム開発へのニーズ
- ③ 自治体施策の実効性を検証するエビデンスの蓄積へのニーズ
- ④ 地域社会との協働を前提とした包括的支援体制構築へのニーズ
- ⑤ 政策立案および施策評価に資するエビデンス構築へのニーズ

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

- ・「ジェンダー視点の導入による教育原理の進化と実践的效果について ～多様性を尊重した教育環境の構築～」
- ・「生徒指導と生命の安全教育における教育職員の役割 ～性暴力防止法を踏まえた児童生徒への指導と支援のあり方～」
- ・「多様性とカウンセリングを取り入れた包括的性教育の推進～教員へのカウンセリングアプローチの視点を通じた学校教育の支援～」